

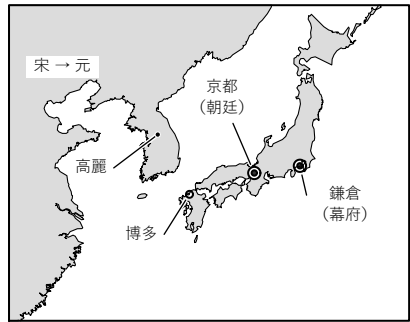
1 全体像	2～4 鎌倉幕府	5 暮らし	6・7 文化と仏教	8・9 ユーラシア	10・11 元寇	12 まとめ
-------	----------	-------	-----------	-----------	----------	--------

1 この単元の全体像 ― 武士は、どのように政権を打ち立て、社会を変えていった？

このページのゴール
 源平の争乱から元寇のあまでの流れと、この単元で学ぶ6つのことを、ざっと言える

⑨では、武士が力をつけ、平清盛が武士として初めて政治の実権をにぎったことを学びました。この単元では、源頼朝が鎌倉に武士の政権（幕府）を開き、武士が政治を動かす時代が本格的に始まります。武士が政治の中心となった、鎌倉時代から室町時代（戦国時代をふくむ）までを**中世**（ちゅうせい）といいます。

1180年	1185年	1192年	1221年	1232年	1274・1281年	1297年
頼朝が兵を挙げる (2)	平氏がほろびる (2)	頼朝が将軍になる (2)	承久（じょうきゅう）の乱（4）	御成敗式目（ごせいはいしきもく）（4）	元寇（げんこう） (10)	徳政令（とくせいれい）（11）



地図：Natural Earth

- ① 鎌倉幕府の成立**
 くわしくは2・3ページ
 幕府ができるまでと、そのしくみを学びます。
- ② 執権政治と承久の乱**
 くわしくは4ページ
 北条氏が幕府を動かしたわけを学びます。
- ③ 武士と民衆の暮らし**
 くわしくは5ページ
 武士の暮らしと、農業・商業の発達を学びます。
- ④ 鎌倉時代の文化と宗教**
 くわしくは6・7ページ
 文化と、新しい仏教を学びます。
- ⑤ 中世のユーラシア**
 くわしくは8・9ページ
 イスラム世界と、モンゴル帝国を学びます。
- ⑥ モンゴルの襲来**
 くわしくは10・11ページ
 元寇と、そのあとの幕府を学びます。

この単元の問い
 武士は、なぜ政権を打ち立て、社会を変えることができた？（答えは12ページ）

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/)
<https://katekyo-note.com/%e3%80%90e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91e9%8e%8c%e5%80%89e5%b9%95e5%ba%9c%e3%81%a8%e6%ad%a6%e>

2 源頼朝は、どのようにして鎌倉に幕府を開いた？

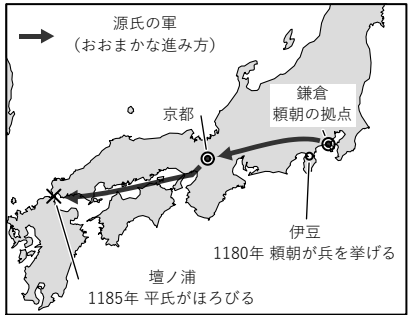
このページのゴール 源平の争乱の流れと、守護・地頭、征夷大將軍を、年とともに言える

① 平氏をたおした源平の争乱

平清盛の政治に不満をもった武士が、各地で兵を挙げました（源平の争乱）。

- ① 1180年、伊豆（いず）にいた源頼朝が兵を挙げ、鎌倉を拠点にする
- ② 頼朝の弟の源義経（よしつね）らが、平氏を西へ追いつめる
- ③ 1185年、壇ノ浦の戦い（だんのうらのたたかい。今の山口県）で、平氏がほろびる

頼朝が鎌倉を拠点にしたのは、鎌倉が、三方を山に、南を海に囲まれ、敵が攻めにくい土地だったからです。



地図：Natural Earth

② 守護と地頭

頼朝は、義経をとらえることを理由に、1185年、朝廷に守護（しゅご）と地頭（じとう）を置くことを認めさせました。

	守護	地頭
どこに置く	国ごと	荘園や公領ごと
何をする	軍事・警察（御家人〈將軍に仕える武士〉をまとめ、犯罪を取りしめる）	土地の管理と年貢の取り立て

③ 征夷大將軍と鎌倉幕府

1192年、頼朝は朝廷から征夷大將軍（せいいたいしょうぐん）に任命されました。⑨では「蝦夷を従わせるための軍の総大将」でしたが、頼朝のあとは、武士のかしら（幕府の長）を表す地位になっていきました。

鎌倉幕府＝鎌倉を中心とする武士の政権 鎌倉時代＝幕府が鎌倉にあった約150年間

幕府ができた年は、守護・地頭を置いた1185年とする考えと、征夷大將軍になった1192年とする考えがあります。幕府のしくみは、少しずつ整えられていきました。

注意 × 守護は、荘園や公領ごとに置かれた → ○ 国ごと（荘園や公領ごとは地頭）

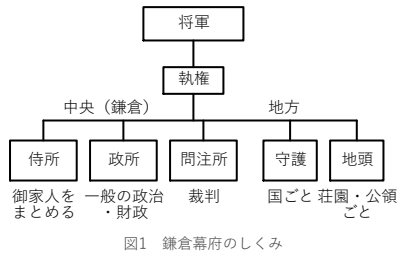
合言葉 「守護は国ごと、地頭は荘園ごと」

→ まとめ：武士が、自分たちの政権をつくった

3 将軍と御家人は、何で結びついていた？

このページのゴール 幕府のしくみと、将軍と御家人が土地を仲立ちに御恩と奉公で結びついていたことを、図で説明できる。幕府ができて朝延が続いたことを言う

① 幕府のしくみ

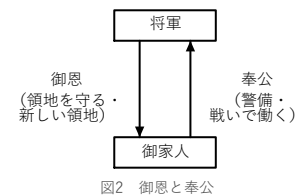


頼朝のあと、将軍を助けて幕府を動かしたのは執権（しっけん）です（くわしくは4ページ）。鎌倉の中央には、侍所（さむらいどころ）・政所（まんどころ）・問注所（もんちゅうじょ）を置き、地方には守護と地頭を置きました。

御家人（ごけにん）＝将軍と主従関係を結んだ武士

② 御恩と奉公

御恩と奉公＝将軍と御家人が、土地を仲立ちとして結ばれた主従関係



- 1 将軍が、御家人の領地を守り、手がらにに応じて新しい領地をあたえる（御恩）
- 2 御家人が、警備や戦いで、将軍のために働く（奉公）
- 3 手がらを立てると、また御恩をもらえる。土地があたえられるから、御家人は命がけで戦う

③ 幕府と朝廷

幕府ができて、朝廷はなくなりました。天皇や貴族も続いていました。

	東日本	西日本
はじめのころの力	幕府の力が強い	朝廷や貴族の力も強い

注意 × 幕府ができて、朝廷はなくなった → ○ 朝廷は続いた

合言葉 「御恩は土地、奉公は戦い」

→ まとめ：武士が、土地を仲立ちに、御家人をまとめた

4 承久の乱で、幕府と朝廷の関係はどう変わった？

このページのゴール 執権政治と、承久の乱・御成敗式目のわけを言える

① 北条氏の執権政治

頼朝が亡くなると、頼朝の妻の北条政子（ほうじょうまさこ）の実家の北条氏が、幕府の実権をにぎりました。源氏の将軍は3代で絶えました。

執権政治＝北条氏が、将軍を助ける職の執権に代わつて、幕府を動かした政治

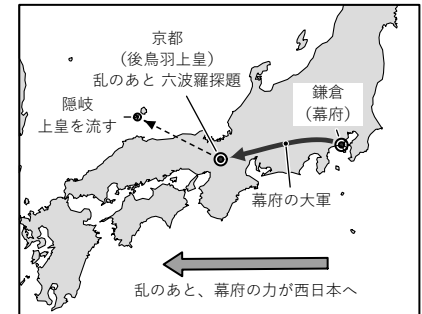
② 承久の乱

❶ 1221年、後鳥羽上皇（ごとばじょうこう）が、朝廷の力を取りもどそうと、幕府をたおすよう武士に呼びかけた

❷ 北条政子が、御家人に頼朝の御恩を説き、団結させた

❸ 幕府の大軍が京都に攻め上り、上皇の軍を破った。乱は短い間に終わった

乱のあと、京都には六波羅探題（ろくはらたんたい）が置かれ、朝廷を見はり、西日本の御家人をまとめました。



地図：Natural Earth

❹ 上皇は隠岐（おき）に流された。幕府は、上皇側の貴族や武士の領地を取り上げ、その土地の地頭に東日本の御家人を任命した

❺ → 幕府の力が西日本にも広がった

③ 御成敗式目

❶ 承久の乱のあと、西日本にも東日本の御家人が地頭として置かれた

❷ 荘園領主（しょうえんりょうしゅ。貴族や寺社）と地頭の、土地や年貢をめぐる争いが増えた

❸ 争いを公平に裁判するための基準が要った

❹ 1232年、3代執権の北条泰時（やすとき）が定めた

御成敗式目＝武士の社会の慣習（習わし）にもとづいて、御家人の領地などをめぐる争いを、公平に裁判するための基準

武士が定めた最初の法です。律令はなくなり、武士のための法を別に定めました。

注意 × 承久の乱は、源氏と平氏の戦い → ○ 後鳥羽上皇と、幕府の戦い

→ まとめ：武士が、朝廷にも勝ち、自分たちの法をつくった

5 鎌倉時代の武士と農民は、どのようにくらした？

このページのゴール 武士のくらしと分割相続、二毛作・定期市・宋銭を言える

① 武士のくらし

武士は、ふだんは領地の館（やかた）に住んでいました。館は、まわりを堀や塀で囲んであります。農民を使って田畑を耕させ、馬に乗って弓を射るなどの武芸にはげみました。一族は、かしらを中心にまとまりました。

分割相続（ぶんかつそうぞく）＝領地を、女性をふくむ子どもたちに分けて相続すること



武士の館
（『一遍上人絵伝』の一部）

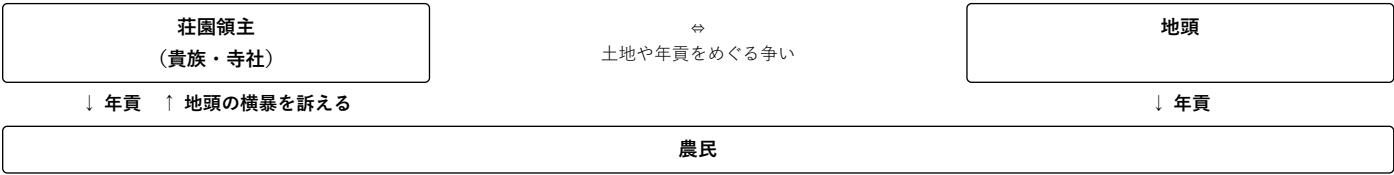


定期市のようす
（『一遍上人絵伝』の一部）

写真：円伊（パブリックドメイン）。Wikimedia Commons より、白黒にした

② 農民を支配したのはだれ？

地頭は、荘園領主（貴族や寺社）と、土地や年貢をめぐる争うようになりました。農民は、荘園領主と地頭の両方から支配されました。



③ 農業と商業の発達

	広まったこと
農業	<u>二毛作</u> （にもうさく）＝同じ田畑で、米と麦など、ちがう作物を1年に2回作る（西日本を中心に広まった）。牛や馬を使った耕作、鉄製の農具、草や木を焼いた灰の肥料
商業	<u>定期市</u> （ていきいち）＝寺社の門前や交通の便利な所で、月に決まった日に開く市。取り引きには、⑨の日宋貿易で入った <u>宋銭</u> （そうせん）が使われた

注意 × 二毛作は、米を1年に2回作ること → ○ 同じ田畑で、ちがう作物を1年に2回作ること

合言葉 「田は二毛作、市は定期市、お金は宋銭」

→ まとめ：武士は、領地の館を中心に、農業や商業の発達に支えられた

6 武士の時代に、どんな文化が生まれた？

このページのゴール 鎌倉文化の特色と、代表的な作品と人物を言える

① 武士や民衆も、文化の担い手に

⑨の国風文化は、貴族の文化でした。鎌倉時代には、貴族だけでなく、武士や民衆も文化の担い手になりました。

鎌倉文化＝公家（貴族）の伝統的な文化を受けつぎながら、武士の気風に合った、素朴で力強い文化（宋の文化の影響も受けた）

② 東大寺南大門と金剛力士像

⑧で学んだ東大寺は、源平の争乱で焼けました。鎌倉時代の初めに、宋の様式を取り入れて東大寺が再建されました。そのとき建てられたのが東大寺南大門です。門には、運慶（うんけい）・快慶（かいけい）らがつくった金剛力士像が置かれました。

金剛力士像は、力強い姿の像で、武士の気風に合っています。



東大寺南大門
(奈良県奈良市)



金剛力士像
(東大寺南大門)

写真：Jakub Hafun (CC BY-SA 4.0)、Bamse (CC BY-SA 3.0)。
Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

③ 文学の作品

作品	人物	種類・説明
『平家物語』	<u>琵琶法師</u> （びわほうし）が語り広めた	<u>軍記物</u> 。平氏の繁栄とほろびをえがく。文字の読めない人々にも親しまれた
『新古今和歌集』	<u>藤原定家</u> （ふじわらのさだいえ）ら	後鳥羽上皇の命令でまとめられた和歌集
『方丈記』	<u>鴨長明</u> （かものちょうめい）	随筆
『徒然草』	<u>兼好法師</u> （けんこうほうし）	随筆

④ 国風文化とのくらべ

	国風文化（平安時代・⑨）	鎌倉文化
担い手	貴族	公家に加え、武士や民衆
特色	日本の風土に合った優美な文化	素朴で力強い文化
代表	源氏物語・平等院鳳凰堂	平家物語・金剛力士像

注意 × 『平家物語』は随筆 → ○ 軍記物（随筆は『方丈記』と『徒然草』）

→ まとめ：武士の時代に、武士の気風に合った文化が生まれた

7 なぜ新しい仏教は、武士や民衆に広まった？

このページのゴール 新しい仏教の6つの宗派を、念仏・題目・座禅に分けて、開いた人・教えと組み合わせて言える。それまでの仏教とのちがいを説明できる

① それまでの仏教と、新しい仏教

	それまでの仏教	鎌倉時代の新しい仏教
奈良時代	国を守るための仏教（⑧ 東大寺と大仏）	わかりやすく、実行しやすい教え。武士や民衆にも広まった
平安時代	天台宗・真言宗や浄土信仰（⑨）。おもに貴族が信仰した	

② 念仏・題目・座禅

新しい仏教の教え＝念仏（「南無阿弥陀仏」と唱える）・題目（「南無妙法蓮華経」と唱える）・座禅（すわって心をしずめる）

教え	宗派	開いた人	特色
念仏	<u>浄土宗</u>	<u>法然</u> （ほうねん）	念仏を唱えれば、だれでも極楽浄土に生まれ変われる
	<u>浄土真宗</u> （一向宗）	<u>親鸞</u> （しんらん。法然の弟子）	法然の念仏の教えを受けついだ
	<u>時宗</u>	<u>一遍</u> （いっぺん）	踊りながら念仏を唱える（ <u>踊念仏</u> ）
題目	<u>日蓮宗</u> （法華宗）	<u>日蓮</u> （にちれん）	題目を唱える教え
座禅	<u>臨済宗</u>	<u>栄西</u> （えいさい）	座禅によって、自分の力で悟りを開く。宋から伝えられた
	<u>曹洞宗</u>	<u>道元</u> （どうげん）	

座禅の教えをまとめて禅宗といいます。

③ 武士に広まった禅宗

禅宗は、座禅によって自分の力で悟りを開く教えです。自分の力で悟りを開く教えが、武士の気風に合いました。臨済宗は、幕府に保護されました。

④ 広まったわけをくらべる

教え	やり方	広まったわけ
念仏・題目	「南無阿弥陀仏」「南無妙法蓮華経」と唱える	わかりやすく、実行しやすい教え
座禅	すわって心をしずめ、自分の力で悟りを開く	武士の気風に合う。臨済宗は幕府に保護された

注意 × 浄土真宗を開いたのは法然 → ○ 親鸞（法然が開いたのは浄土宗）

合言葉 「念仏は法然・親鸞・一遍、題目は日蓮、座禅は栄西・道元」

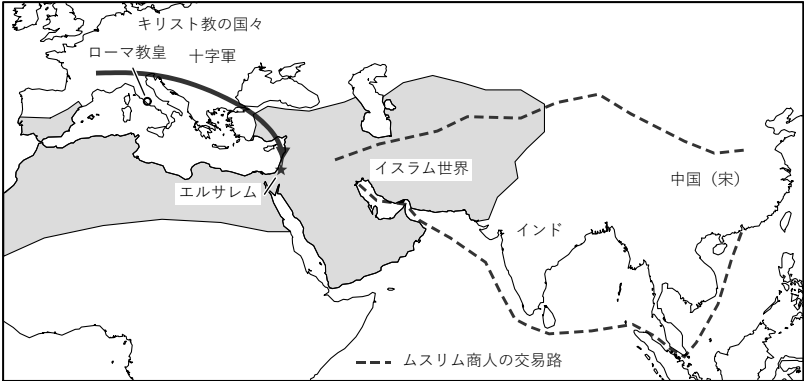
→ まとめ：武士や民衆にも、わかりやすい新しい仏教が広まった

8 中世のユーラシアで、ヨーロッパとイスラム世界はどうつながった？

このページのゴール イスラム世界の広がり、十字軍を言える

① 2つの宗教の広がり

⑦のイスラム教とキリスト教は、そのあと広まりました。イスラム教を信じる人々が治める地域を、イスラム世界といいます。



地図：Natural Earth

	キリスト教の世界	イスラム世界
広がった所	西ヨーロッパ	西アジアから、北アフリカ、イベリア半島（今のスペイン・ポルトガルのあたり）、中央アジア
活やくした人	<u>ローマ教皇</u> （キリスト教の教会のかしら）が、大きな力をもった	<u>ムスリム</u> （イスラム教徒）の商人が、陸の道（シルクロード）や海の道で交易した
進んだ学問	—	数学・天文学・医学。インドで生まれた数字をもとにした <u>アラビア数字</u> が、のちにヨーロッパに伝わった

② 十字軍

十字軍（じゅうじぐん）＝ローマ教皇の呼びかけで、西ヨーロッパの王や貴族が、聖地エルサレム（キリスト教やイスラム教などの聖地）をイスラム勢力から取りもどそうと行った遠征

- ① 11世紀の終わりから約200年の間、西ヨーロッパの王や貴族が、何度も遠征する
- ② エルサレムを取りもどすことはできず、失敗に終わる
- ③ 東西の行き来がふえ、イスラム世界の進んだ学問や品物が、ヨーロッパに伝わる

注意 ×十字軍は、エルサレムを取りもどして成功した → ○失敗したが、東西のつながりが強まった

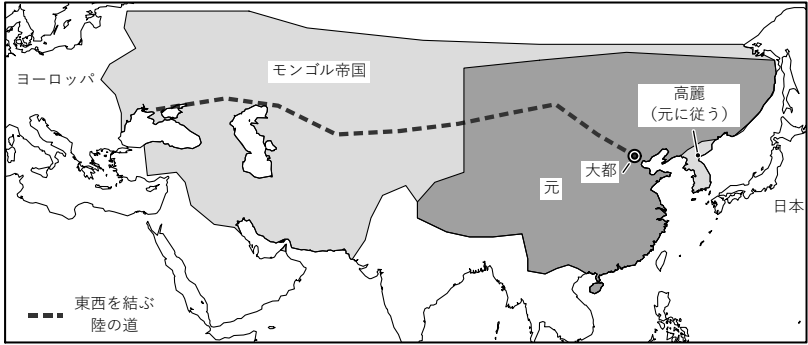
→ まとめ：ユーラシアの東西が、行き来でつながり始めた

9 モンゴル帝国は、ユーラシアをどう結びつけた？

このページのゴール チンギス・ハンとフビライ・ハン、元と大都、東西の交流を言える

① モンゴル帝国の広がり

- ① 13世紀の初め、チンギス・ハンが、モンゴル高原の遊牧民をまとめる
- ② チンギス・ハンの子や孫の代に、東は中国の北部・朝鮮半島、西は西アジア・東ヨーロッパの一部まで広がる
- ③ 孫のフビライ・ハンが、国号（国の名前）を元とし、都を大都（だいと。今の北京）に移す
- ④ フビライは、中国の南に残っていた宋をほろぼして、中国全体を支配する。朝鮮半島の高麗（こうらい）も、元に従う



モンゴル帝国 = モンゴル高原の遊牧民がつくった、ユーラシア大陸の東西にまたがる大帝国

② 行き来したもの

	モンゴル帝国のもとで
道	ユーラシアの陸の道が整えられ、海の道も使われた
人	ムスリム商人など、多くの人が行き来した。イタリアの商人 <u>マルコ・ポーロ</u> は元をおとずれた
日本の紹介	マルコ・ポーロは、旅行記で日本を「 <u>黄金の国ジパング</u> 」と紹介した

元は、日本も従えようとした（→ 10ページ）。

注意 × モンゴル帝国をつくったのはフビライ・ハン → ○ チンギス・ハン（フビライは孫で、国号を元とした）

合言葉 「チンギスがまとめ、フビライが元」

→ まとめ：ユーラシアが、モンゴル帝国のもとで一体化した

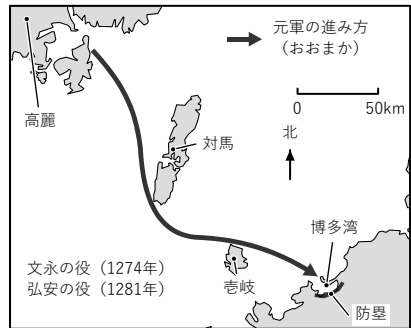
10 元が攻めてきたとき、幕府と御家人はどう戦った？

このページのゴール 文永の役と弘安の役（年・できごと）、防塁、元軍の戦い方を言える

① 2度の襲来

フビライは日本を従えようと、何度も使者を送りましたが、8代執権の北条時宗（ほうじょうときむね）はこれを退けました。

元寇＝元と高麗の軍が、2度、日本に攻めてきたできごと



地図：Natural Earth

幕府は、文永の役のと、次の襲来に備えて、博多湾の沿岸に石の防壁（防塁。ぼうるい）を築きました。弘安の役では、防塁と御家人の抵抗で、元軍は博多の海岸に上陸できませんでした。

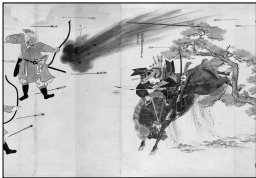
② 元軍と御家人の戦い方

	戦い方
元軍	<u>集団戦法</u> （集団で戦う）。 <u>てつはう</u> など、火薬を使った武器を使った
御家人	一人ひとりが手がらを立てる戦い方に慣れていた

御家人は、慣れない戦い方に苦しみました。



元寇の防塁の跡
（福岡県福岡市）



元軍と戦う御家人
（『蒙古襲来絵詞』の一部）

写真：震天動地（CC BY-SA 3.0）、Tosa Nagataka（パブリックドメイン）。
Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

注意 × 防塁は、文永の役の前に築かれた → ○ 文永の役のと、次の襲来に備えて築かれた

合言葉 「1274 文永、防塁を築いて 1281 弘安」

→ まとめ：御家人は、慣れない戦い方に苦しみながらも、2度の襲来をしのいだ

11 元寇のあと、なぜ幕府はゆらぎはじめた？

このページのゴール 元寇のあと御家人の生活が苦しくなったわけ、徳政令の結果、北条氏に力が集まったことの3つを、御恩と奉公とつなげて説明できる

① 御恩と奉公がうまく回らなくなった

- ① 元寇は外国から守る戦いだったので、新しい土地が手に入らなかった
- ② 幕府は、御家人に十分な恩賞（おんしょう。ほうび）をあたえられなかった。戦いの費用は、御家人が自分で出した
- ③ 分割相続で領地が小さくなり、借金をして土地を手放す御家人が増えた
- ④ 1297年、幕府は徳政令を出し、御家人が手放した土地を、ただで取りもどさせた
- ⑤ 効果は一時的だった。そのあと、御家人にお金を貸す人が少なくなり、御家人はかえって苦しくなった
- ⑥ 御家人の幕府への不満が高まった

② 永仁の徳政令

永仁の徳政令（1297年）	
出した人	幕府
内容	御家人が手放した土地を、ただで取りもどさせる
結果	効果は一時的。お金を貸す人が少なくなり、御家人はかえって苦しくなった

③ 御恩が足りなくなると？

3ページの図2とくらべてみましょう。

将軍（幕府）	↓ 御恩（土地）が足りない×
御家人	↑ 奉公はしたのに…？ → 不満

④ 北条氏に力が集まる

北条氏の一族は、多くの国の守護など、幕府の重要な役職につきました。北条氏に力が集まり、ほかの御家人の不満も高まりました。

→ 後半の室町時代で、鎌倉幕府はほろびる

注意 × 元寇に勝ったので、御家人は新しい領地をたくさんもらった → ○ 守る戦いで新しい土地は得られず、恩賞は足りなかった

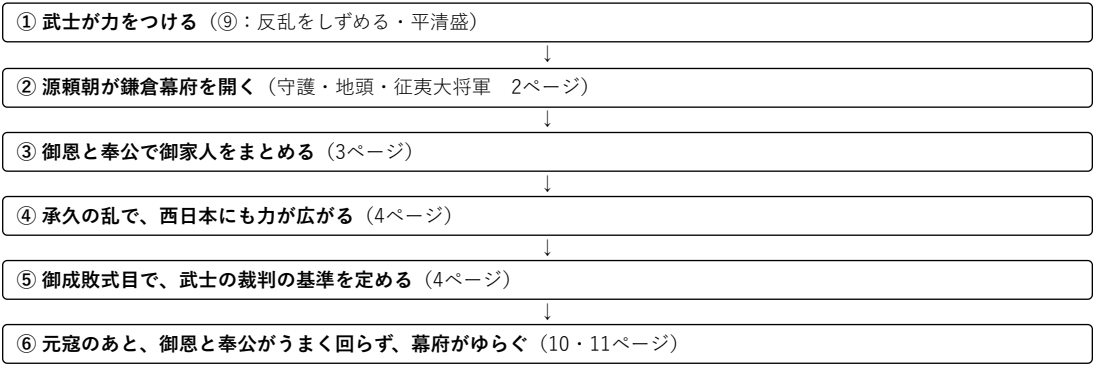
合言葉 「元寇は守る戦い、だから恩賞の土地が無い」

→ まとめ：御恩と奉公がうまく回らず、幕府がゆらいだ

12 武士は、なぜ政権を打ち立て、社会を変えることができた？

このページのゴール 2～11ページを、ステップチャートで順につないで、1ページの問いに答えられる

① ステップチャート



同じころ
武士や民衆にも、新しい文化
と仏教が広まった (6・7ページ)

世界では
十字軍・モンゴル帝国 (8・9
ページ)

② 年表

年	できごと	年	できごと
11世紀の終わり	十字軍が始まる	1221年	承久の乱
1180年	源頼朝が兵を挙げる	1232年	御成敗式目
1185年	壇ノ浦の戦い・守護と地頭を置く	1274年	文永の役
1192年	源頼朝が征夷大將軍になる	1281年	弘安の役
13世紀の初め	モンゴル帝国ができる	1297年	永仁の徳政令

③ 問いの答えの例

武士は、土地を仲立ちにした御恩と奉公で結びつき、源頼朝のもとで鎌倉幕府を開きました。守護と地頭を置き、承久の乱に勝って西日本にも力を広げ、御成敗式目で武士の裁判の基準を定めました。こうして武士が政治を動かす社会になりましたが、元寇のあと恩賞が足りず、御家人の不満が高まりました。

確認問題① 源平の争乱と武士の政権・幕府のしくみと御恩と奉公・北条氏の政治と承久の乱

答えと解説は17・18ページ（9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 源平の争乱と武士の政権について答えなさい。【1・2ページ】

- (1) 伊豆で兵を挙げ、鎌倉を拠点にした人物はだれですか。 _____
- (2) 平氏がほろんだ戦いを何といいますか。また、それは今のどこの県で起こりましたか。 _____
- (3) 頼朝は、だれをとらえることを理由に、守護と地頭を置くことを朝廷に認めさせましたか。 _____
- (4) 頼朝が征夷大將軍に任命されたのは何年ですか。 _____
- (5) 鎌倉を中心とする武士の政権を何といいますか。また、その政権が鎌倉にあった約150年間を何といいますか。 _____
- (6) 幕府の成立年には、守護・地頭を置いた年とする考えと、征夷大將軍になった年とする考えがあります。それぞれ何年ですか。 _____
- (7) 頼朝が鎌倉を拠点にしたわけとして正しいものを選びなさい。
ア 京都の近くで、朝廷を見はりやすいから イ 三方を山に、南を海に囲まれ、敵が攻めにくいから
ウ 蝦夷に従わせるのに便利だったから エ 平氏の一族が代々住んでいた土地だから _____
- (8) 守護は (A) ごとに置かれ、(C) を行った。地頭は (B) ごとに置かれ、(D) を行った。(A) ~ (D) にあてはまる語や文を書きなさい。
A (_____) B (_____) C (_____) D (_____)

2 幕府のしくみと御恩と奉公について答えなさい。【3ページ】

- (1) 幕府の中央に置かれた役所の名前を書きなさい。武士をまとめる役所は (A)、一般の政治・財政を行う役所は (B)、裁判を行う役所は (C) である。A (_____)
B (_____) C (_____)
- (2) 将軍と主従関係を結んだ武士を何といいますか。 _____
- (3) 将軍は、(2) の人々の先祖からの領地を認めて守り、手がらにに応じて新しい (A) をあたえた。(2) の人々は、京都や鎌倉の (B) をつとめた。(A) (B) にあてはまる語を書きなさい。A (_____) B (_____)
- (4) 将軍と (2) の人々は、どのような関係で結ばれていましたか。「土地」「御恩」「奉公」の3つの語を使って書きなさい。

- (5) ○か×を書きなさい。幕府は、手がらを立てた (2) の人々を、地頭に任命することがあった。 _____
- (6) ○か×を書きなさい。幕府ができると、朝廷はなくなった。 _____

3 北条氏の政治と承久の乱について答えなさい。【4ページ】

- (1) 頼朝の死後、北条氏が代々ついで、幕府の実権をにぎった職を何といいますか。 _____
- (2) 承久の乱のとき、頼朝の御恩を説いて武士を団結させた、頼朝の妻はだれですか。 _____
- (3) 朝廷の力を取りもどそうと、幕府をたおすために兵を挙げた人物として正しいものを選びなさい。
ア 白河上皇 イ 北条泰時 ウ 後鳥羽上皇 エ 平清盛 _____
- (4) 承久の乱のできごとを、起こった順に並べなさい。
ア 頼朝の妻の呼びかけで、武士が団結する イ 上皇が、幕府をたおそうと兵を挙げる
ウ 幕府の大軍が京都に攻め上り、勝つ エ 上皇が、遠くの島へ流される _____
- (5) 承久の乱のあと、幕府の力が西日本に広がったのはなぜですか。「上皇側の領地」「東日本」「地頭」の3つの語を使って書きなさい。

- (6) 御成敗式目の目的として正しいものを選びなさい。
ア 武士の領地などの争いを、公平に裁判する基準 イ 全国の農民から税を取り立てる決まり
ウ 天皇の位のゆずり方を決める決まり エ 戦いのときの動き方を命じる決まり _____
- (7) 御成敗式目ができたわけとして正しいものを選びなさい。
ア 元との戦いで恩賞が足りなくなったから イ 西日本にも地頭が置かれ、荘園領主と争いが増えたから
ウ 朝廷が律令をなくそうとしたから エ 幕府が、鎌倉から京都へ移ったから _____

確認問題② 武士と民衆のくらし・鎌倉文化と新しい仏教・地図で見る鎌倉時代

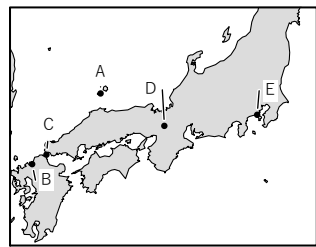
- 4 武士と民衆のくらしについて答えなさい。【5ページ】
- (1) 鎌倉時代の武士のくらしとして正しいものを選びなさい。
ア 都の貴族の屋敷に集まり、歌や管弦を楽しんだ イ 領地を持たず、貴族の命令だけで動いた
ウ 毎日、市で品物を売ってくらしした エ 領地の館に住み、弓や乗馬などの武芸にはげんだ _____
- (2) 武士が、領地を子どもたちに分けて相続するしくみを何といいますか。 _____
- (3) 農民は、(A) と (B) の両方から支配された。(A) は貴族や寺社などの領主で、(B) は幕府が荘園や公領ごとに置いた役職である。(A) (B) にあてはまる語を書きなさい。 A () B ()
- (4) 同じ田畑で、米と麦など、ちがう作物を1年に2回作る農法を何といいますか。 _____
- (5) 寺社の門前などで、月に決まった日に開かれた市を何といいますか。 _____
- (6) 取り引きに使われた、宋から輸入した銭を何といいますか。 _____
- (7) (4) の農法は、東日本と西日本のどちらを中心に広まりましたか。 _____
- (8) 牛や馬を使った耕作のほかに、農業の発達のために広まった道具は何ですか。 _____

- 5 鎌倉文化と新しい仏教について答えなさい。【6・7ページ】
- (1) 作品と人物の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 方丈記―兼好法師 イ 徒然草―鴨長明 ウ 方丈記―鴨長明 エ 平家物語―鴨長明 _____
- (2) 源平の争乱で焼けた東大寺の再建のときに、宋の様式を取り入れて建てられた門を (A) といい、その門に置かれた、運慶・快慶らがつくった像を (B) という。(A) (B) にあてはまる語を書きなさい。 A () B ()
- (3) 『平家物語』を語り広めた人々を何といいますか。 _____
- (4) 後鳥羽上皇の命令で、藤原定家がまとめた和歌集を何といいますか。 _____
- (5) 鎌倉文化は、どのような特色をもつ文化ですか。「公家」「武士」の2つの語を使って書きなさい。 _____

- (6) 次の表の (A) ～ (D) にあてはまる語を書きなさい。
- | 教え | 宗派 | 開いた人 |
|----|-----|------|
| 念仏 | 浄土宗 | (A) |
| 念仏 | (B) | 親鸞 |
| 念仏 | 時宗 | (C) |
| 題目 | (D) | 日蓮 |
- A () B () C () D ()
- (7) 宗派と開いた人物の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 臨済宗―栄西 イ 曹洞宗―栄西 ウ 浄土宗―親鸞 エ 日蓮宗―道元 _____
- (8) ○か×を書きなさい。禅宗は、中国の宋から伝えられた。 _____
- (9) 平氏の繁栄とほろびるまでをえがいた『平家物語』のような物語を、何といいますか。 _____
- (10) 念仏や題目を唱える新しい仏教が、武士や民衆に広まったのはなぜですか。簡単に書きなさい。 _____

- (11) 禅宗が武士に広まったわけとして、正しいものを選びなさい。
ア 念仏で、極楽浄土に生まれ変わるから イ 自分の力で悟る教えが、武士の気風に合ったから
ウ 踊りながら念仏を唱える教えだから エ 国を守るための仏教だったから _____

- 6 地図で見る鎌倉時代について答えなさい。【2・4・10ページ】
- 次の (1)～(5) にあてはまる所を、地図の A～E から選び、記号で書きなさい。



地図：Natural Earth

- (1) 源頼朝が、兵を挙げたあと拠点にした所 _____
- (2) 1185年に、平氏がほろびた戦いの場所 _____
- (3) 承久の乱のあと、上皇が流された所 _____
- (4) 朝廷（天皇）がいた所 _____
- (5) 文永の役で、元軍が上陸した所 _____

確認問題③ 中世のユーラシアとモンゴル帝国・元寇とそのあと・まとめ

7 中世のユーラシアとモンゴル帝国について答えなさい。【8・9ページ】

- (1) キリスト教の教会のかしらで、十字軍を呼びかけた人を何といいますか。 _____
- (2) 十字軍が取りもどそうとした聖地はどこですか。 _____
- (3) 十字軍の結果として正しいものを選びなさい。
ア 聖地を取りもどし、イスラム世界をほろぼした
イ 聖地を取りもどせず失敗したが、イスラム世界の学問や品物がヨーロッパに伝わった
ウ 聖地を取りもどし、ヨーロッパとイスラム世界の行き来がとだえた
エ ヨーロッパとイスラム世界の行き来は、まったく生まれなかった
- (4) 陸の道や海の道で交易した、イスラム教徒の商人を何といいますか。 _____
- (5) 13世紀の初め、モンゴル高原の遊牧民をまとめた人物はだれですか。 _____
- (6) 国号を元とした人物はだれですか。 _____
- (7) イタリアの商人マルコ・ポーロは、旅行記で日本を何と紹介しましたか。 _____
- (8) 元に従った、朝鮮半島の国を何といいますか。 _____
- (9) 元の都となった大都是、今のどこですか。 _____

8 元寇とそのあとについて答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 元の使者の求めを退けた、8代執権はだれですか。 _____
- (2) 元寇の2度の襲来と年の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 文永の役—1281年 弘安の役—1274年 イ 文永の役—1274年 弘安の役—1297年
ウ 文永の役—1274年 弘安の役—1281年 エ 文永の役—1281年 弘安の役—1297年 _____
- (3) 幕府が、博多湾の沿岸に築いた石の防壁を何といいますか。 _____
- (4) 元軍の戦い方として正しいものを選びなさい。
ア 一人ひとりが手がらを立てる戦い方 イ 集団で戦い、火薬を使った武器を使った
ウ 馬に乗り、一人ずつ名乗りをあげて戦った エ 船から降りず、海の上だけで戦った
- (5) 元寇のあと、御家人が幕府に不満をもったのはなぜですか。「守る戦い」「新しい土地」「恩賞」の3つの語を使って書きなさい。

- (6) ○か×を書きなさい。1297年に幕府が出した徳政令で、御家人の生活は長く安定した。 _____
- (7) 元寇のあと、多くの国の守護など、幕府の重要な役職について力を強めた一族は何氏ですか。 _____
- (8) 弘安の役で、元軍が博多の海岸に上陸できなかったのはなぜですか。「石の防壁」「御家人の抵抗」の2つの語を使って書きなさい。

- (9) 元軍が使った、火薬を使った武器を何といいますか。 _____
- (10) 元寇のとき、戦いの費用はだれが出しましたか。 _____

9 まとめについて答えなさい。【12ページ】

- (1) 次の流れの (A) (B) にあてはまる語を書きなさい。
武士が力をつける → 源頼朝が (A) に幕府を開く → 御恩と奉公で御家人をまとめる → 承久の乱で、幕府の力が (B) 日本にも広がる → 御成敗式目で裁判の基準を定める → 元寇のあと、幕府がゆらぐ
A () B ()
- (2) 次のア～オを、古い順に並べなさい。
ア 守護と地頭を置く イ 御成敗式目 ウ 文永の役 エ 永仁の徳政令 オ 承久の乱 _____
- (3) 源頼朝が兵を挙げたのは何年ですか。 _____
- (4) 武士が政権を打ち立て、社会を変えることができたのはなぜですか。「土地」「御恩と奉公」の2つの語を使って書きなさい。

- (5) ○か×を書きなさい。源頼朝が征夷大將軍になったのは、モンゴル帝国ができるより前である。 _____
- (6) 十字軍が始まったのは、何世紀の終わりですか。 _____

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

源平の争乱と鎌倉幕府（2・3ページ）

1180年、源頼朝が伊豆で兵を挙げ、鎌倉を拠点にする→源義経らが平氏を追いつめる→1185年、壇ノ浦の戦いで平氏がほろびる。1185年、守護（国ごと・軍事と警察）と地頭（荘園や公領ごと・土地の管理と年貢の取り立て）を置く。1192年、頼朝が征夷大將軍になる（幕府の成立年は1185年説・1192年説）。鎌倉幕府＝鎌倉を中心とする武士の政権、鎌倉時代＝約150年間。

將軍を助ける執権。中央に侍所（御家人をまとめる）・政所（一般の政治・財政）・問注所（裁判）。御家人＝將軍と主従関係を結んだ武士。御恩＝領地を守り、新しい領地をあたえる。奉公＝京都・鎌倉の警備と戦い。土地を仲立ちとする主従関係。幕府ができて朝延は続いた。

執権政治・承久の乱・御成敗式目（4ページ）

北条政子の実家の北条氏が執権として実権をにぎる（執権政治）。源氏の將軍は3代で絶える。1221年、後鳥羽上皇が幕府をたおそうと兵を挙げる（承久の乱）→幕府軍が勝ち、上皇は隠岐へ。京都に六波羅探題を置き、上皇側の領地に東日本の御家人を地頭に任命→幕府の力が西日本にも広がる。1232年、3代執権北条泰時が御成敗式目を定める（武士の慣習にもとづき、領地などの争いを公平に裁判するための基準）。

武士と民衆のくらし（5ページ）

武士は領地の館に住み、武芸にはげむ。領地は女性をふくむ子どもたちに分割相続。地頭は荘園領主と争う。二毛作（同じ田畑で米と麦など1年に2回・西日本中心）・牛馬・鉄製農具・灰の肥料。定期市・宋銭。

鎌倉文化と新しい仏教（6・7ページ）

鎌倉文化＝公家の伝統を受けつぎ、武士の気風に合った素朴で力強い文化（宋の影響も。国風文化は貴族の優美な文化）。東大寺南大門・金剛力士像（運慶・快慶ら）／平家物語（軍記物。琵琶法師が語る）／新古今和歌集（藤原定家ら。後鳥羽上皇の命令）／方丈記（鴨長明）・徒然草（兼好法師）＝随筆。

教え	宗派	開いた人
念仏	浄土宗／浄土真宗（一向宗）／時宗（踊念仏）	法然／親鸞／一遍
題目	日蓮宗（法華宗）	日蓮
座禅	禅宗＝臨済宗（幕府に保護された）／曹洞宗	荣西／道元

中世のユーラシアとモンゴル帝国（8・9ページ）

イスラム世界＝イスラム教を信じる人々が治める地域（ムスリム商人が交易・アラビア数字）。ローマ教皇が呼びかけた十字軍（11世紀の終わりに約200年）は聖地エルサレムを取りもどせず失敗→東西の行き来がふえた。13世紀の初め、チンギス・ハンがモンゴル帝国をつくる→孫のフビライ・ハンが国号を元とし、都を大都（今の北京）に移す。高麗も元に従う。マルコ・ポーロは日本を「黄金の国ジパング」と紹介。

元寇とそのあと（10・11ページ）

8代執権北条時宗が、フビライの求めを退ける。文永の役（1274年）＝集団戦法・てつほうに苦しむ→防塁を築く。弘安の役（1281年）＝防塁と抵抗・暴風雨もあって引きあげる。元寇は守る戦いで新しい土地が得られず、恩賞が足りない。分割相続で領地が小さくなり、借金で土地を手放す御家人が増える→1297年、永仁の徳政令（手放した土地をただで取りもどさせる）→効果は一時的→不満が高まる。北条氏に力が集まる。

年表

年	できごと	年	できごと
1180年	源頼朝が兵を挙げる	1232年	御成敗式目
1185年	壇ノ浦の戦い・守護と地頭を置く	1274年	文永の役
1192年	源頼朝が征夷大將軍になる	1281年	弘安の役
1221年	承久の乱	1297年	永仁の徳政令

確認問題の答えと解説

1【1・2ページ】

(1) 源頼朝 (2) 壇ノ浦の戦い・山口県
(3) 源義経 (4) 1192年
(5) 鎌倉幕府・鎌倉時代
(6) 1185年・1192年 (7) イ
(8) A 国 B 荘園や公領 C 軍事・警察（御家人をまとめ、犯罪を取りしめる）
D 土地の管理と年貢の取り立て

頼朝は1180年に伊豆で兵を挙げ、義経らが平氏を追いつめて、1185年の壇ノ浦の戦いで平氏がほろびました。同じ1185年に守護・地頭を置き、1192年に征夷大將軍になりました。鎌倉は三方を山に、南を海に囲まれ、敵が攻めにくい土地です（アは鎌倉が京都から遠いのでちがう。ウ・エは、2ページの「三方を山に、南を海に囲まれ、敵が攻めにくい」というわけとちがいます）。【1・2】

2【3ページ】

(1) A 侍所 B 政所 C 問注所
(2) 御家人 (3) A 領地（土地） B 警備
(4) (例) 將軍が御家人の土地を守り、新しい土地をあたえる御恩に対し、御家人が警備や戦いで將軍のために働く奉公をする、土地を仲立ちとする主従関係。
(5) ○ (6) ×

幕府の中央には、御家人をまとめる侍所、一般の政治・財政を行う政所、裁判を行う問注所が置かれました。將軍と御家人は、土地を仲立ちとする御恩と奉公の関係です。入れる語：「土地」「御恩」「奉公」。御恩の一つに、地頭に任命することがありました。(6) 幕府ができて、朝廷はなくなりませんでした。はじめのころ、西日本では朝廷や貴族の力も強いままでした。【3】

3【4ページ】

(1) 執権 (2) 北条政子 (3) ウ
(4) イ→ア→ウ→エ
(5) (例) 承久の乱に勝った幕府が、上皇側の領地を取り上げ、その地頭に東日本の御家人を任命したから。
(6) ア (7) イ

頼朝の死後、北条氏が執権として実権をにぎりました。承久の乱は後鳥羽上皇が幕府をたおそうとして起こし、北条政子の呼びかけで団結した御家人が勝ちました（白河上皇は院政を始めた人、北条泰時は御成敗式目を定めた人、平清盛は平氏の人です）。負けた上皇は、隠岐に流されました。入れる語：「上皇側の領地」「東日本の御家人」「地頭」。御成敗式目は、荘園領主と地頭の争いを公平に裁判する基準で、税を取り立てる決まりや、天皇の位のゆずり方を決める決まりではありません。【4】

4【5ページ】

(1) エ (2) 分割相続
(3) A 荘園領主 B 地頭
(4) 二毛作 (5) 定期市 (6) 宋銭
(7) 西日本 (8) 鉄製の農具

武士は領地の館に住み、武芸にはげみました。領地は子どもたちに分割相続しました。農民は、荘園領主と地頭の両方から支配されました。農業では二毛作（西日本を中心に広まりました）、商業では定期市と宋銭が広まりました。農業では、牛や馬を使った耕作や鉄製の農具も広まりました。【5】

5【6・7ページ】

(1) ウ
(2) A 東大寺南大門 B 金剛力士像
(3) 琵琶法師 (4) 新古今和歌集
(5) (例) 公家の伝統的な文化を受けつぎながら、武士の気風に合った、素朴で力強い文化。
(6) A 法然 B 浄土真宗（一向宗） C 一遍 D 日蓮宗（法華宗）
(7) ア
(8) ○ (9) 軍記物
(10) (例) わかりやすく、実行しやすい教えだったから。 (11) イ

方丈記の作者は鴨長明、徒然草の作者は兼好法師で、平家物語は軍記物です。東大寺南大門は宋の様式で再建されました。念仏は法然（浄土宗）・親鸞（浄土真宗）・一遍（時宗）、題目は日蓮（日蓮宗）、座禅は栄西（臨済宗）・道元（曹洞宗）が開きました。禅宗は宋から伝えられました。(10)(11) 念仏・題目は、唱えるだけのわかりやすく実行しやすい教えでした。禅宗は、自分の力で悟りを開く教えが武士の気風に合い、臨済宗は幕府に保護されました。アは浄土宗、ウは時宗、エは奈良時代の仏教です。【6・7】

6【2・4・10ページ】

(1) E (2) C (3) A (4) D (5) B

Eは鎌倉（頼朝の拠点）、Cは壇ノ浦（平氏がほろびた所）、Aは隠岐（後鳥羽上皇が流された島）、Dは京都（朝廷のあった所）、Bは博多（博多湾。文永の役で元軍が上陸した所）です。【2・4・10】

7【8・9ページ】

(1) ローマ教皇 (2) エルサレム (3) イ
(4) ムスリム商人 (5) チンギス・ハン
(6) フビライ・ハン (7) 黄金の国ジバング
(8) 高麗 (9) 北京

十字軍は聖地を取りもどせず失敗しましたが、東西の行き来がふえ、イスラム世界の学問や品物がヨーロッパに伝わりました。モンゴル帝国はチンギス・ハンがつくり、孫のフビライ・ハンが国号を元とし、都を大都（今の北京）に移しました。朝鮮半島の高麗も、元に従いました。【8・9】

8【10・11ページ】

(1) 北条時宗 (2) ウ (3) 防塁 (4) イ
(5) (例) 元寇は外国から守る戦いだったので新しい土地が手に入らず、幕府が御家人に十分な恩賞をあたえられなかったから。
(6) × (7) 北条氏
(8) (例) 元軍の上陸を防ぐ石の防壁があり、御家人も抵抗したから。
(9) てつはう (10) 御家人（自分）

文永の役は1274年、弘安の役は1281年です。元軍は集団戦法と火薬を使った武器で戦い、一人ひとりが手がらを立てる戦い方に慣れていた御家人は苦しみました。徳政令の効果は一時的で、かえって苦しくなりました。入れる語：「守る戦い」「新しい土地」「恩賞」。弘安の役では、博多湾の沿岸に築いた石の防壁（防塁）と御家人の抵抗で、元軍は上陸できませんでした（入れる語：「石の防壁」「御家人の抵抗」）。戦いの費用は御家人が自分で出したので、生活が苦しくなりました。【10・11】

9【12ページ】

(1) A 鎌倉 B 西
(2) ア → オ → イ → ウ → エ
(3) 1180年
(4) (例) 武士が、土地を仲立ちにした御恩と奉公で御家人をまとめ、幕府を開いて政治を動かしたから。
(5) ○ (6) 11世紀

守護と地頭を置く（1185）→ 承久の乱（1221）→ 御成敗式目（1232）→ 文永の役（1274）→ 永仁の徳政令（1297）の順です。入れる語：「土地」「御恩と奉公」。頼朝が征夷大將軍になったのは1192年で、モンゴル帝国ができた13世紀の初めより前です。十字軍は、11世紀の終わりに始まりました。【12】